

感染予防と拡大防止に向けて 新型インフルエンザ



【親子でうがい・手洗いの習慣を】 11月18日 石越子育て支援センター

1 知っておきたい 新型インフルエンザのこと

新型インフルエンザ (A/H1N1)とは

◆ウイルスについて

新型インフルエンザは、インフルエンザウイルスのA型、H1N1型のウイルスによるもので、ことしの4月にメキシコでの流行が確認された後、世界的に流行しています。このウイルスは、豚の間で流行していたウイルスが突然変異により人に感染するようになったもので、農場などで豚から人に感染し、その後、人の間で広まったとされています。

また、このウイルスは、季節性インフルエンザと抗原性が大きく異なるウイルスで、国民の大多数が免疫を持っていないことから、市内でも学校・保育施設を中心に市内全域で流行しています。【表】

【表】市内新型インフルエンザ感染状況

(11月19日現在 保育所 市立幼稚園・小中学校) 単位：人

地区	保育所	幼稚園	小学校	中学校	計
迫地区	19	2	28	7	56
登米地区	1	-	10	1	12
東和地区	-	-	1	1	2
中田地区	5	-	7	-	12
豊里地区	2	1	2	-	5
米山地区	4	2	15	6	27
石越地区	3	-	8	3	14
南方地区	-	-	17	-	17
津山地区	-	-	11	18	29
計	34	5	99	36	174

保育所 市立幼稚園・小中学校 感染者累計 1,678人

熱、せき、のどの痛み、鼻水、体のだるさ、筋肉痛、頭痛、下痢、嘔吐などですが、まれに発熱が伴わないこともあります。

◆毒性について

現時点では、感染力や病原性などについて未解明な部分がありますが、季節性インフルエンザと同様に感染力が強いものの、多くの患者が軽症のまま回復しているとされています。また、医療機関において医師が必

要と認める場合に処方される、抗ウイルス薬が有効とされていて、薬の使用により、体内でインフルエンザウイルスの増殖を抑え、症状を緩和させることができます。

かからないため うつさないために

新型インフルエンザの感染経路は通常のインフルエンザと同様で、咳やくしゃみとともに放出されたウイルスを、のどや鼻から吸い込むことによつておこる「飛沫感染」と、ウイルスが付着したものを触れた後に目、鼻、口などに触れることで、粘膜・結膜などを通じて感染する「接触感染」が考えられています。

新型インフルエンザは、感染しても軽症の人が多いといわれていますが、軽症だからといって、仕事や学校に行ったり、人込みの中に入ったりとすると、多くの人に感染が広がってしまいます。また、自分は軽症で済んでも、直接的・間接的に、重症化する危険のある人に感染させてしまうことにもつながります。

そのため、ウイルス感染を予防するためには、一人一人が「なるべく感染しない」「感染してもほかの人にうつさない」ように、マスクの着用や手洗い・うがいなどを心掛けることが大切です。

【新型インフルエンザの感染経路】

鼻や口、目を素手で触らない

接触感染

感染者 免疫がない人

感染した人の咳やくしゃみのしぶきが付いた箇所や患者自身の手を触るとウイルスが付きまわります。そのままの手で鼻や目の粘膜に触れるとウイルスが体内に入ります。

咳やくしゃみなどから感染

飛沫感染

感染者 免疫がない人

ウイルスは、感染した人の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれています。近くにいる人がそのしぶきを吸い込むと新型インフルエンザに感染します(飛沫感染)。

いま、全国的に猛威を振るっている「新型インフルエンザ」。これから流行期を迎える季節性インフルエンザとともに、感染の拡大に伴い、さまざまな影響が心配されています。市民の皆さんの健康被害をできるだけ少なくし、暮らしへの影響を可能な限り減らすためには、国・県・市で行う対策はもちろん、家庭や職場での対策が非常に重要となります。また、そのためには、手洗いの習慣や、新型インフルエンザの特徴を知ることなど、必要な知識を身に付けることが大切です。今月の特集では、症状や予防の方法、感染拡大防止に向けた市の取り組み、医師からのアドバイスなど市民の皆さんに紹介します。新型インフルエンザの感染予防などについて、家族や職場などで話し合い、インフルエンザから身を守りましょう。